

【会報の巻頭言】

「食品包装による社会への貢献」

一般社団法人日本食品包装協会
副理事長 小國盛稔

当協会の使命は「定款」に示されている通り、『国民生活に不可欠な食品包装に係る食品業界、包装資材関連業界、教育界、公的研究機関・大学等の学術団体、環境関連団体、消費者団体等の相互の連携・協力を促進し、食品包装に係る経済活動の活性化を図るとともに、食品包装に係る科学技術の振興、食の安全・安心の向上、環境の保全、消費者への適切な情報提供、国際協力の推進等に必要な諸事業を行い、もってわが国の国民生活の向上に寄与する』ことにあります。言い換えれば、当協会の使命は「食品包装による社会への貢献」にあります。

当協会が、それを実現するためには、国内外に対して「食品包装はこうあるべき！」との提言をし、食品包装の在るべき姿を示して行くことが、当協会の重要な役割であると思います。

そして、現実的には、会員企業の皆様が「食の安全・安心を前提として、地球環境への配慮を忘れず、顧客及び消費者に満足頂ける製品を適正な品質で、且つ適正な価格で造り上げ、供給していくことを実現する」ために、当協会が如何にフォローさせていただくかに掛っていると思います。

「食品包装による社会への貢献」は、例えば、東日本大震災時におけるレトルトパウチ食品・缶詰食品・ビン詰食品などや乾燥食品などの保存食品の貢献が大であったことに象徴されます。

しかしながら、このような保存食品は、単に困った時の神頼み的な存在として利用されたのに過ぎず、日が経つにつれて、消費者は「保存食品が何たるか？」に興味を示さなくなり、保存食品であっても「製造年月日の近い製品を買う」という従来の思考に戻ってしまいました。

即ち、消費者にとっては、日常生活では、保存食品も日配食品も同じであり、単に食べ易く、使い易くなった食品の域を出ず、ましてや保存食品には「包装材料が極めて重要な役割を占めている」との認識が理解されているとは思えません。

当協会は、今後、国内外の流通や消費者に対して「食品ロスの削減」との兼ね合いも含めて、「食品包装の重要性」をアピールしていき、特に消費者に「食品包装の価値を認めて貰う」ことに、真剣に取り組んでいくべきであると思います。

そのためにも、会員企業の皆様と手を携え、「食品包装の社会貢献」を世の中に訴え、「消費者の意識を変えて貰い、食品包装が正当な評価が得られるよう」に、引き続き努力していきたいと思っております。